

ふくしま2023「女性の活躍推進シンポジウム」

一意思決定プロセスへの女性参画を目指して

参加報告書 参加者（会津若松市協働参画の会4名）

開催日時；2023年8月4日（金）14時～16時50分

会場；福島県男女共生センター

第1部；トークセッション 進行役 内堀雅雄県知事

- ① 山本真紀氏（株）資生堂（「女性が活躍する会社 BEST100」総合ランキング1位）
ダイバーシティ&インクルージョン戦略推進部グループマネージャーとして、自身の現場での経験から女性活躍全般の課題の特定と解決策の立案に取り組む。
- ② 渡部雅子氏 会津オリンパス(株) 人事総務部EHSグループ課長、育児休暇後管理職となる。女性視点の施策や視点が入ることで、会社の取組に変化が起こる。そこには、何でも話せる上司がいて期待されたことにより成功したことが、大きな体験となる。また、キャリアを積むためには、難しいことにも挑戦することで、結果として出来ることが多いなど、若い時から考えていたことが実現できた。
- ③ 菅野恭子氏（株）小野中村 総務部長
建設部社員の半数が女性で、女性目線での子育て応援のためのリモートワークや提携託児所の設置を行う。
- ④ 小野哲義氏 第一生命保険(株)福島支店長
やらされ感からやりたいからやるという使命感へと変えるワーキンググループが、会社の総合力となり業務知識や資格を取る人材育成ができた。社会や社内で学ぶ女性リーダーを育てることが大事である。

第2部；アンコンシャスバイアスを知る、気づく、対処する

～トップの意識改革により、一人ひとりがイキイキと活躍する組織づくりをめざして～

- ① 守屋智敬氏 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事
アンコンシャスバイアスとは、「無意識の思い込み、偏見」とも表現され、日常にあふれていて誰にでもあることである。「決めつけ」や「押しつけ」の言動に表れやすい。対処法としては、頭ごなしに「決めつけない」「良かれと思って」や「配慮のつもり」は、「相手にとってどうなのか」を確認することを忘れないようにする。私の「アンコンシャスバイアス」を常に振り返ることが大事。

第3部；活動発表

- ① 「女性が抱える課題に対する意識調査」アンケート研究報告
アンケート時期；令和4年11月～令和5年2月
内容；多様化し複雑化している女性の抱える問題のうち、家庭の暮らし方、家計の収支状況、働き方、くらしの課題を中心に県内在住女性1,000名に行った。
- ② 双葉郡沿岸部に居住する高齢女性の「災害時避難行動意図」に関する調査研究報告

◎感想

社会や働く場所（会社）には、同質（それぞれが持っている性質や性格などが共通している）だけであると見落としが起きやすい。（盲点となってしまう）新しい気づき、イノベーションを起こしリスクを減らしていくためにも、女性の視点が大事であることに同感した。輝く女性の活躍のためには、女性だから、男性だからではなく柔軟性を持った働き方が大事である。誰もが生きやすい社会へと環境を整え、作っていくためには、一人ひとりの意識の変革と多様性への社会の理解が求められていく時代である。

令和5年8月29日

2023年8月4日ふくしま女性活躍推進シンポジウム2023

収 支 決 算 書

収入の部

項 目	決算額	備 考
自己負担額	6,160	@1,540×4名 (山崎捷子・大山亨子・遠藤はるえ・松嶋加代子)
会津若松市助成金	6,000	対象経費の1/2 ※上限ひとり5,000円
合 計	12,160	

支出の部

項 目	決算額	備 考
交通費 (JR)	12,160	会津若松駅～二本松駅往復 @3,040×4名
合 計	12,160	